ひみどころ

2014年
(平成26年)
5月18日
日曜日

ひみどころ編集部
発行所：加藤文俊研究室

第六号

「海の男」見習い

取材を終え港で散歩していると、漁師さん達が漁から帰ってきたところに遭遇した。呼び寄せられるまま建物に入るとそこは彼らの秘密基地だった。

始めは男だらけのたまり場に緊張していたが、仕事を終えてお酒を飲みながら他愛のない話をする姿に仕事人である父との共通点を感じ、親近感が湧いてきた。

その海の男達の中に自分と同じ年の青年が一人いた。漁師といえば若者不足なものだと思っていた私にとって彼の存在は意外だった。

彼が漁師になったのは二年前、十九歳のとき。始めは魚の調理を勉強しようと高校を出てレストランに入ったが、昔からの憧れと魚を見る楽しさを感じて漁師になったそう。力仕事や早朝の起床などきついことはたくさんあるが、楽しさがあるからやめられない。仕事を終えてから、みんなで集まってわいわいする時間も楽しいと語っていた。

「昔から漁師になりたかった」と言う彼に周りの先輩漁師たちは様々な野次を飛ばしながらも、その顔には笑顔が絶えなかった。

先輩たちは厳しい。でもその厳しさの中には優しさが隠れている。その彼の言葉がこの一場面から少し、垣間見えた。

彼の父が漁師でなかったにも関わらず自然と憧れを抱いていたように、氷見の人々にとって漁師とは身近で、かつ大きな誇りある存在なのだろう。

彼は根強くある漁師への誇りを胸にこれから氷見の漁業を支える「海の男」になるのである。スムーズに難しい作業をこなす姿がかっこいいと言う彼は同い年である自分よりもずっと逞しく見えた。

（香川 早苗）

偶然見つけたお店

商店街で見かけた、アイロンを掛ける女性。天井からコードの伸びるアイロンで作業をする、昔ながらのクリーニング屋だ。ガラス窓の隙間から声をかけると、窓を開けてお話をしてくださった。

腰くらいの高さの作業台で、立ちっぱなしで一枚一枚アイロンを掛ける。今日はこれくらい、と決めていつも作業する。窓際にいると、窓から話しかける人や、手を降ってくれる顔なじみも多いそうだ。「この作業なら話しながらもできるでね」

お店の中には、手持ちのアイロンが二つ、アイロン台が大小で五つ、Yシャツ用の大きなアイロンが一台。服の部位によって使い分ける。シワのある服がみるみるうちに綺麗になっていくのは見ていて気持ちがいい。手作業のほうが、細かいところまで丁寧に仕上げられる。こまめに手入れすれば、十年持つという。

道具はすべて旦那さんと一緒に修理をしながら使い続けている。「(使うのは)素人は絶対無理。ハンカチ一枚だってゆがんじゃう」そう言って見せてくれた手のひらには『アイロンまめ』ができていた。ここにある服は長年の道具と技で仕上げられているのだ。

お客さんもずっと変わらない。服を見ただけで、お客さんの顔も浮かぶのだとか。

「この街も人が減って『素通り商店街』やね」「後継者もいないし、道具がだめになったら私達もやめよかな」そう話す彼女だが、服と店を通して接してきた街と街の人が好きなのだということは伝わってくる。

「孫と話してるみたいで楽しかったよ」と、笑って見送って下さった。人のぬくもりと、服のぬくもりを感じられる時間だった。

（上田 桜子）

角の雑貨屋さん

さほど大きくはない交差点の一角に、その店はある。「ハートフル安靖」は、障害者が作ったものを売る店だ。店頭には、「障害者手作り品の店」と書かれた木の看板が立っており、ガラス越しに見える店内には、可愛らしい雑貨が並ぶ。

店に入ると、二人の常連客と話す女性が目に入った。彼女が店長らしい。レジには別にもう一人、赤いエプロンをした女性店員が立っていた。その人は知覚障害を持っているそうだ。私が関東から来たことを言っておすすめを聞くと、店長は油がよく落ちる石けんや、牛乳パックでできた小さな椅子などいろいろな商品を紹介してくれた。

レジでは「せっかく氷見まで来たのだから」と言って、地方新聞で作られた袋にキーホルダーを入れてくれた。そして、赤いエプロンの店員が出入口の扉を開けてくれる。また行きたいと思わせるような、心地良い気遣いとサービス。それは私の心を確かに掴んだ。

（中島彩也香）

…関係は続いていく…

昨年、取材をさせて頂いたル・シャノワールに訪れた。氷見には珍しいワイン・バー。地図は見ずに、昨年の記憶を頼りにお店へ向かった。進むにつれて、記憶が鮮明になってくる。店先で緊張しながらドアノブに手をかける私は、昨年と全く変わっていなかった。

一年ぶりに再会した店主の余川貴志さんは、包容力のある笑顔で迎え入れてくれた。この笑顔が懐かしい。お店には常連と思われるお客さんが数人いらして、ワインやカクテルを片手におしゃべりに夢中だ。私たちの前にもワインが出される。SAYSFARMの白ワイン。取材後に連れて行って頂いた思い出の農園だ。自然と昨年の話になる。「ポスターね、家に飾ってあるよ」。その言葉に、嬉しさのあまり驚いた表情になってしまった。ポスターは、余川ファミリーの暮らしの一部になっている。憧れのファミリーに、仲間入りできた気分だ。

キャンプではまちの人に取材をさせて頂き、それをもとに人物のポスターを作成する。翌日出来上がったポスターを取材先の方と囲むことで、相手と私の距離はぐっと近くなる。いつでもポスターを見れば「元気にしていらっしゃるかな」と気にかかり、一緒に過ごした時間を思い出す。

「ゆうりちゃんさ、」と余川さんに声を掛けられる。名前で呼ばれただけで、笑みがこぼれてしまう。今回もう一度会えたことで、私たちの関係は取材者と被取材者を越えられた気がした。

氷見には会いたい人がいる。ヒミングをきっかけに出会った人たち。その人たちに会うために、私はまた氷見に訪れる。彼らとの関係は続いていくだろう。

（田中優里）

小さなにおい

氷見に初めて降り立ち、のんびりと海辺を歩いていた。ふわりと心地よい風が吹いて、おや？と違和感を覚える。風に乗って運ばれてきたのは、私の知っている海のにおいではなかった。私の出身地である東京の海は、重くて生臭い嫌なにおいがする。しかし、氷見の海は軽やかで心地よい潮のにおいがした。初めて嗅ぐにおいに感動し、私は大きく息を吸い込んだ。

氷見には、余計なにおいが少ない。ここにいるとついつい、「くさい」という感覚を忘れそうになる。理由を知りたくて元漁師の方にお話を聞くと、「きれいだからだよ」と教えてくださった。きれいな海はいいにおいがするらしい。町を歩きながら足元をよく見ると、ゴミもほとんど落ちていない。海や町がきれいに保たれているから、余計なにおいがしないのだろう。

ここでは嗅覚が敏感になる。身の回りの、ほんの小さなにおいでも感じられるようになる。氷見の町は、人の気配を感じる小さなにおいで溢れている。店から漏れる香ばしいコーヒーのにおい、おじいさんに連れられて散歩中の犬のにおい、玄関先のプランターから漂う花のにおい、イイコトの前で開かれているカレーキャラバンのスパイスのにおい…。小さなにおいに気付くと、見えている町の景色が変わる。普段は気にかけないことに興味が湧いてくる。

氷見は美しく、繊細な町だ。明日も小さなにおいを求めて、鼻の穴を大きく広げながらこの町を歩きたいと思う。

（此下千晴）

氷見をみつめる

氷見の暮らしは実はとても面白い。ここに住む人々にとっては当たり前となっている「氷見」という場所の魅力を考えるアートNPO団体がヒミングである。今回はそんなヒミングの人々を取材した。「当たり前になっている暮らしを見直して、面白がって言いふらしたい」。ヒミングにいる理由をそう語ったのは鈴木順子さんである。人生は楽しい方がいい、だからこそ暮らす場所の面白さを再発見することで、日常を楽しむきっかけを作ることができるのではないか。そんな考え方に魅力を感じた。

また、新しく入った二人にもヒミングでやっていきたいことを尋ねてみた。そのひとり、高橋渓輔さんは氷見の人々の「何か」になりたいと言う。「氷見のことを一緒に考えていきたい」という彼の思いが形になり、氷見の人々に欠かせない「何か」になる時が楽しみである。「まちでおもしろいことがしたい」と氷見にやって来たのが上地里佳さんだ。その土地の人々と一緒にまちについて考え、面白いことをやってみる。そんな新しい風を氷見に吹かせてくれるだろう。ヒミングには氷見のまちや人のことを考える人々が集まり、そこには常に面白さや新たな発見がある。みなさんもぜひ足を運んでみてはどうだろう。

（桑原維子）

この地に再び

一年前、私が初めてポスターを作った場所は、ここ氷見だった。インタビューの仕方も、写真の撮り方も分かっていなかった私が、一年かけてもう一度この地に戻ってきたのだ。街への懐かしさを覚えながら、今回もここでポスター制作ができることに喜びを感じていた。

インタビューは終始とても明るい雰囲気で、笑い声が絶えなかった。初めてポスターを作った時は、緊張し、先輩にリードしていただく形で終わってしまったが、あれから一年たったと思うと、時が過ぎる早さに驚く。

時間とともに、ポスターに対する考え方も変化していった。相手の話を聞き、心の秘めた輝きを見つける。それを誰に、なんの為にポスターとして表現するのか。様々な土地を訪れ、ポスター制作を続けていく中でポスターは「人に還すためのもの」なのだと感じるようになった。相手に耳を傾け、知り、考え、私達の感じたままのその人を表現し、お還しする。私達の想いが伝わった時、そこにポスターを作る意義があるのかもしれない。

（白羽相仁亜）

ポスター展

5/18(日)12:00~

@ヒミングアートセンター

氷見ではたらく人びとの魅力に焦点を当てたポスターを展示します。ぜひお越し下さい。